

3 令和6年度「事業のチェックポイント^{ファイブ}5」の概要

「埼玉県男女共同参画基本計画」の主な関連事業について、担当課所が「チェックポイント5」に基づき自己チェックを行った結果は次のとおりです。

(1) 「チェックポイント5」のチェック結果

チェックポイント5を実施した令和6年度関連事業…316事業

1	事業の対象となる人々及びその現状を男女別に把握した	127事業 (40.2% 前年度：40.9%)
2	事業の企画、立案、実施の際、女性、男性双方の意見を聞いた、又は、双方が参加した	189事業 (59.8% 前年度：62.9%)
3	女性、男性双方にとって利用・参加しやすいような配慮をした	204事業 (64.6% 前年度：63.9%)
4	事業の方向性を男女共同参画に配慮した	158事業 (50.0% 前年度：50.5%)
5	事業の効果が女性、男性それぞれに寄与した	226事業 (71.5% 前年度：72.8%)

(2) 男女共同参画に配慮した主な内容（概要）

※〈 〉内は事業名等。特に記載のないものは各種事業共通。

①事業の対象を男女別に把握

- ・相談件数、研修受講者（修了者）数、対象職員数、利用者数、育児休業取得者数などで、男女別にデータを把握した。
- ・アンケートを男女別に分析し、ニーズの把握や今後の事業展開に役立てた。

②企画、立案、実施への男女共同参画

【県民コメントの実施】

- ・計画の策定において県民コメントを実施し、男女の区別なく意見を聞いた。

【関係団体等からの意見聴取】

- ・事業者、関係団体、専門家等から女性、男性双方に対しニーズ調査や意見交換を行った。

【委員などにおける女性の登用】

- ・審議会、委員会、協議会、審査会等、各種会議の構成委員の男女比率に配慮し、女性を積極的に登用した。

【女性職員、男性職員双方による企画・立案・実施】

- ・企画会議に男女双方の職員が参加した。
- ・事業の企画、立案、実施の際に、女性職員・男性職員双方の意見を反映させた。

【女性、男性双方の県民が事業に参加】

- ・事業の登録アドバイザーやボランティア参加者などに、女性・男性双方の県民が参加した。

③女性、男性双方にとって利用・参加しやすいような配慮

【インターネット・Microsoft Teams・LINEの活用】

- ・相談、各種講座、イベント等の申込みを電子で行い、参加しやすくした。
- ・インターネットを活用した情報発信を行ったり、講座のオンライン配信を行うなど、24時間利用可能とし、男女双方が利用しやすい環境を整備した。

【時間帯の配慮】

- ・事業や相談、研修会等を夜間や休日に実施したり、日中と夜間の時間帯両方を設けるなど、女性・男性双方が参加しやすいよう配慮した。

<男女共同参画推進センター運営費>

「With You さいたま」は月～土曜は21時まで、日曜・祝日も17時30分まで開館している。

【育児への便宜】

- ・県民を対象とした講座等を実施する際には、可能な限り保育室の提供、保育士の手配などを行い、子育て世代の参加に配慮した。

【その他】

- ・障害者や高齢者、子供などが安心して歩くことができるよう、段差のない、幅の広い歩道整備を推進するとともに、より多くの人に配慮した公園整備を実施した。

④事業の方向性を男女共同参画に配慮

- ・広報物の作成、研修会の実施において、内容が男女のどちらか一方に偏ることがないように配慮した。

<「男性のための悩み相談」の実施>

男女共同参画の視点から男性をサポートするために、男性臨床心理士による電話相談を実施した。

<男女共同参画に関する意識啓発のための講師派遣>

県政出前講座として、職員を講師として派遣し、災害・防災において男女共同参画の視点、配慮等について助言、講義を行った。

⑤事業の効果が女性、男性それぞれに寄与

<企業内保育所設置等促進事業>

企業内保育所の設置が進み、男女を問わず子育て期の従業員にとってより働きやすい職場となることが期待できる。

<仕事と生活の両立支援事業>

男女を問わず、介護・子育て・病気治療をしながら仕事を継続できるよう、支援制度等について周知し、より働きやすい職場づくりの形成に寄与した。

<放課後子供教室推進事業>

放課後子供教室と放課後児童クラブが一体的に実施し、子供たちの放課後の居場所づくりを推進することにより、男女が仕事や地域活動を安心して行うための子育てにおける支援を行った。